

## R3 年度地域医療を支える看護学生スタートアップ講座実施報告

地域推薦入学生支援専門部会

### 1. 講座の概要

1) 日時・場所：令和3年12月24日(金) 13:00~15:45 場所：高木講堂、学生会館

2) 企画・実施：地域推薦入学生支援専門部会、入試委員会、就職対策委員会

### 3) 講座の目的・目標

令和4年度地域推薦入試の合格者(以下合格者)と保護者、地域推薦入学在學生(以下在學生)、市町村担当者、教員が一堂に会し、「推薦を受けた地域の看護職者に就き、地域住民の健康を担い、将来リーダー的役割を果たすことができる優れた看護職者の育成と確保を目指す」という地域推薦入試制度の目的を確認するとともに、共に地域医療について考えることを通して、地域推薦入学生としての大学生活がイメージできるようになることを目的とする。

### 4) 対象

- ・令和4年度地域推薦入試の合格者とその保護者
- ・合格者及び在學生の推薦市町村担当者
- ・1~4年の地域推薦入学生
- ・看護大教職員

### 5) プログラム

#### I. 地域医療における活動報告会

##### (1) 地域医療について考えよう

###### 1. 卒業生の活動報告

「都城市郡医師会病院が行う地域医療と新人看護師としての学び」

都城市郡医師会病院 看護師 吉田 綾乃(地域推薦入学2期生)

###### 2. 入学前課題「推薦市町村の地域の特性について把握しよう」報告

1年生：名和田 風華(都城市) 黒木 真名(都農町)

田口 もえ(延岡市) 川野 愛海(えびの市)

谷口 香歩(高鍋町)

##### (2) 市町村担当者との意見交換

- ・学生交流会

#### II. 合格者・保護者、在學生 推薦市町村担当者、教員との三者面談。

### 2. 講座の評価

#### 1) 参加者数：59名

内訳：合格者及び保護者4名(合格者は保護者とともに全員出席)

在學生22名(全員出席)

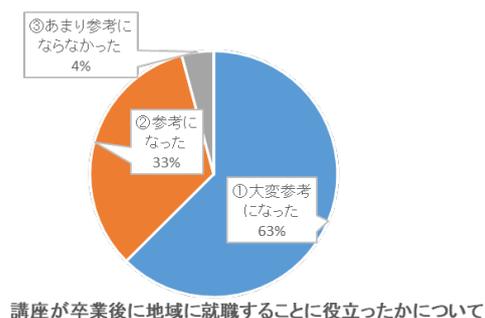
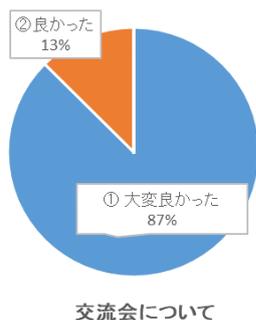
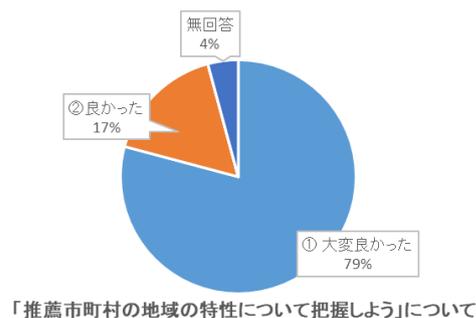
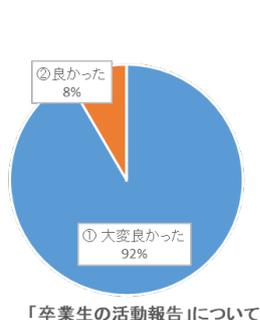
市町村担当者10名(業務の都合で推薦市町村2名が欠席)

教職員23名

## 2) プログラム内容について

### (1) 学生アンケート

- アンケート回収率は100%であった。(在学生22名、合格者2名 合計24名)
- 回答者全員が「卒業生の活動報告」「入学前課題の報告」「交流会」について、〈大変良かった・良かった〉と評価した。またほとんどの学生が本講座が卒業後に地域に就職する上で〈大変参考になった・参考になった〉と評価した。



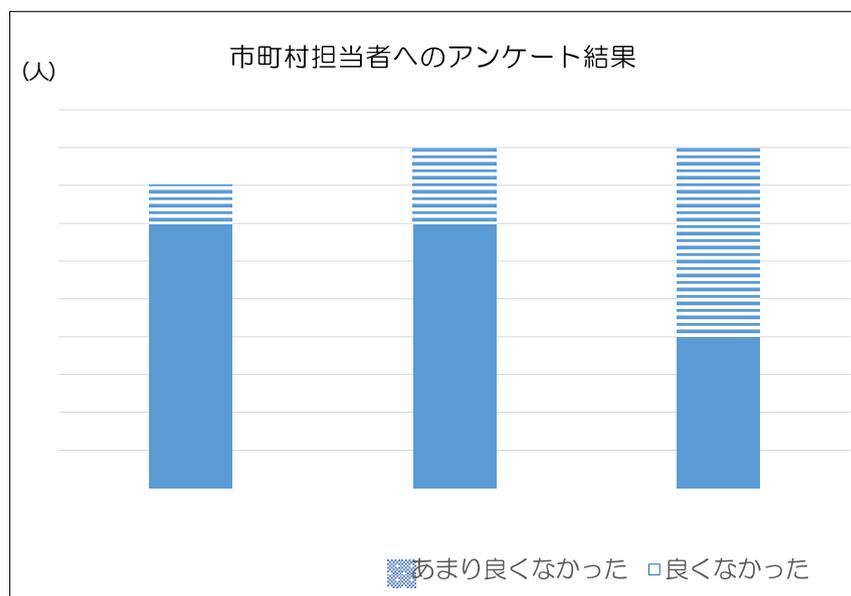
### 【自由記述からの抜粋】

項目	合格者	在学生
卒業生の活動報告について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないことをたくさん質問できた。直接先輩方のお話を聞くことができてよかった</li> <li>・先輩方とたくさん話すことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に先輩が受け持たれた患者さんの事例を用いて、看護観や学びを発表されていて分かりやすかった(1年生)</li> <li>・地域にどのような興味・関心を持ったのかが良くわかり、地元への思い入れもよくわかった(2年生)</li> <li>・中々聞くことのできない実際の現場での話を聞くことができたので良かった(3年生)</li> <li>・自分も次は卒業後1年目であるので、看護観についてちゃんと軸となるものを持っておこうと思った(4年生) 他</li> </ul>
入学前課題「推薦市町村の地域の特性について把握しよう」報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後自分がどう活動していけばよいか分かった。もっと自分の地域について深く知りたかった。</li> <li>・参考になる話だった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの地域の特徴が良くわかった(1年生)</li> <li>・それぞれの地域に求められる医療について知ることができた(2年生)</li> <li>・自分たちの時は課題がなかったため、地域課題をどのように考えていたかを知る機会になった(3年生)</li> <li>・自分の住む地域以外の特性を知ることができた(4年生) 他</li> </ul>
交流会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安に思っていたことを質問して、先輩方も優しく返してく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩方がどのような活動をしているかを知れてよかった(1年生)</li> <li>・先輩から実習のことなどを聞いて、他にも様々な話ができて</li> </ul>

	<p>ださって不安がなくなった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活の内容が聞けた</li> </ul>	<p>楽しかった(2年生) ・後輩の推薦の時の状況であったり、みんなの進路についての考えを知ることができた(3年生) ・同じ地域であるので共通点も多く、いろんな話ができ(4年生) 他</p>
<p>講座が卒業後に地域に就職することに役立ったかについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことを調べればよいかの参考になった</li> <li>・大学卒業後の方からも話を聞きとても参考になった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと地域との関係性を深めていく必要があると感じることができた(1年生) ・地域に貢献したいという思いを持っている人と話すことができ、意欲につながった(2年生) ・地域の特徴を知ることが今後の強みに活かすことができるのだとわかった(3年生) ・地域の特徴を知っておくことで個性に合わせた看護ができると感じた(4年生) 他</li> </ul>

(2) 市町村担当者アンケート

- アンケート回収率は90%であった。
- 「卒業生の活動報告」「入学前課題の報告」「意見交換会」について、参加した市町村は概ねく大変良かった・良かった>と評価した。



【自由記述からの抜粋】

項目	在学生
卒業生の活動報告について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の声が大変参考になった</li> <li>・志望動機から今日にいたるまでわかりやすくまとめておられた</li> <li>・他市の卒業生の状況を知れて良かった</li> <li>・地域の実情を把握し、それに対する経験、知識をお持ちで素晴らしいと思った</li> <li>・自分よりしっかりした発表と思った</li> <li>・就職する前から地域医療に関心をもって勉強されていて医療従事者としての意識の高さを感じた</li> <li>他</li> </ul>
入学前課題「推薦市町村の地域の特性について把握しよう」報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実情をしっかりと把握しまとめられていた</li> <li>・非常に勉強していると感じた</li> <li>・地域の実態をよく調べられており、それについて医療の目線で自分の思いをよくまとめられていた</li> <li>・他市の学生がそれぞれ出身地の状況を調べ、まとめることができていた</li> <li>・それぞれの市町村の実情が良くわかる報告であった</li> <li>・病院や住民の話を調査していることが素晴らしいと感じた</li> <li>・地域に関心を持ち地域の将来を担う人材としてのすばらしさを感じた</li> <li>・2022年度の入学生への指導の際に役立つと感じたため</li> <li>他</li> </ul>
意見交換会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域推薦の位置づけが良くわかったため</li> <li>・話が少ししにくい感じがした</li> <li>・この事業に対する疑問を確認することができ良かった</li> <li>・他市の状況を知れて良かった</li> <li>・勉強になった</li> <li>・あまり準備をしていなかったで大した意見を言うことができなかった</li> <li>他</li> </ul>

- プログラムのすべての項目で高評価であり、合格者、在学生、市町村担当者のそれぞれの立場で、「推薦を受けた地域の看護職者に就き、地域住民の健康を担い、将来リーダー的役割を果たすことができる優れた看護職者の育成と確保を目指す」という地域推薦入試制度の目的を再確認するとともに、共に地域医療について考えることを通して、合格者が地域推薦入学生としての大学生活がイメージできるようになることに資する講座になったと評価した。

### (3) 市町村との意見交換会で共有された事項

- 大学病院と国保病院との連携で、キャリアアップしていくための仕組みを新たに構築したことから、地域推薦入学生の卒業教育に活かしていきたい(美郷町)
- 「地域推薦入試に関するQ&A」に、「地域推薦入試では、原則看護師として卒業後すぐに推薦地域に就業する意志を持つ学生が対象」と記載されてから、推薦条件もこの通りとしている。この条件が適用となったのが本学生からであり、推薦する前に高校を通して条件を確認してもらい、本人の承諾を得て推薦した。本人は助産師になりたいという思いも強く、本当にこれでよいのか葛藤するところがある。一方で、「推薦市町村の意向による」と言われるとさらに混乱するため、「看護師」としっかりと限定してもらった方が、双方にとってよいと思う。推薦してくる高校にそこをしっかりと理解してもらった上で推薦してもらうようにしてほしい。(えびの市)
- 助産師免許を取得する希望があっても、お産を扱う病院がない状況であり、2次医療圏まで拡大しても助産師として就職することが難しい。産前、産後の検診は行っている医療機関があることから、採用枠があれば就職も可能かもしれないが、学生本人は看護師として就職する意思を示している。本人のキャリア形成のイメージと就職先がマッチせず、支援する側としても悩ましい。(えびの市)
- 入学時に助産課程に進学し、助産師として勤務することを共有していたが、就職先病院の産科が閉鎖されることになり、就職支援について困惑している。(小林市)
- 今年度の地域推薦入試倍率と、倍率に関する大学の分析を教えてください(日南市)
- 市民病院を持っているので人材確保のために福島高校に「地域推薦の学生を送ってほしい」と依頼をするが「就職先が決まってしまうので」と反応は良くない(串間市)

## 3. 三者面談の評価

### 1) 市町村担当者からの意見(一部抜粋)

- ・ 三者面談では自治体担当者の疑問に丁寧に答えられました
- ・ 推薦した学生の思いが直接聞けて良かった
- ・ 地域推薦入学の主旨が伝わりました
- ・ 学生さんと直接話をする機会を持って、いろいろな意見を聞けて良かった
- ・ 地域推薦の目的を再確認できてよかった
- ・ 卒業後に推薦地域で4年間就業することになるが、その期間は誰がモニターあるいは支援するのか

### 2) 三者面談で把握された課題

卒業後の就職先について以下の状況が生じていることが把握された。

- ・ 入学前に市町村担当者と確認していた卒業後の就職について、4年間で病院事情が変化した場合、卒業後の就業のイメージを作り替えなければならない。(助産師免許取得後、推薦地域で助産師として従事予定の医療機関[産婦人科]の休診、あるいは病院の合併計画により推薦地域の医療機関に変化が生じる可能性があるなど)

- 推薦地域に立地する医療機関が新人看護師の採用をしない場合の就職先
- 保健師として就職したい場合に、卒業年度に推薦地域での採用枠があるか不明
- 専門領域（例えば小児看護でキャリアを積みたい等）に特化した医療機関が推薦地域にない

#### 4. 今後の地域推薦入学生へ支援について

##### ●効果が確認できたため引き続き継続していく事項

- 1) 地域医療を支える看護学生スタートアップ講座の継続開催
- 2) 入学前課題「推薦市町村の地域の特徴と求められる地域医療」を課す：地域への愛着形成
- 3) ポートフォリオの作成を課す（在 student にも適用）：目標像の確認と成長の自己評価、面談への活用
- 4) 交流会（ピアサポート）の強化：卒業生も交え地域医療について考える意見交換の場の設定
- 5) 「地域推薦入学生の学生生活の手引き」の活用
- 6) 2 年次、3 年次には学生、市町村担当者、教員との三者面談を実施：就職についての方向性の共有

##### ●支援の強化

- 1) 高校・市町村に地域推薦入試制度の目的について再度周知（市町村が推薦するにあたり、高校教員とのやり取りのみで済ませ、一度も学生と面接のないまま推薦 / 地域医療に興味があると学生が表現したら地域推薦入試を勧める など）
- 2) 入学後に地域の医療関連施設の状況が変化する場合もあり、出口対策を強化する必要がある。入学時から市町村担当者と学生が細やかに卒業後の進路についてすり合わせを行えるよう調整を行う。特に、地域の病院事情の変化が見込まれる場合や、卒業年度の採用枠について、タイムリーに情報提供を行ってもらい、年次ごとに学生の進路の意思確認をきめ細やかに行うよう市町村担当者にはたらきかける。
- 3) この2 年間、コロナ禍で市町村での活動等が制限され、地域と繋がっている実感が薄れている学生もみられる。「推薦地域の看護職につき、地域に貢献する」という目的が達成できるように、コロナ禍でも可能な市町村との連携を模索し、学生への支援を強化していく。